

Economic Trends

発表日：2025年7月25日（金）

都区部版・日銀基調的インフレ率の試算（2025/7）

～まちまち：刈込平均・加重中央値は低下～

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 星野 卓也（Tel：050-5474-7497）

資料1. 数表：試算した都区部版・基調インフレ率と日銀の全国CPI基調インフレ率（前年比・%）

	刈込平均値 東京	刈込平均値 東京_全国 ウェイト	刈込平均値 全国	加重中央値 東京	加重中央値 東京_全国 ウェイト	加重中央値 全国	最頻値東京	最頻値全国	低変動CPI 東京	低変動CPI 全国
	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	筆者作成
2024年7月	1.8	2.0	1.8	0.6	0.7	1.1	1.5	1.5	1.3	1.2
2024年8月	1.9	2.0	1.8	0.6	0.7	0.7	1.4	1.3	1.2	1.1
2024年9月	1.8	2.0	1.7	0.6	0.6	0.8	1.4	1.4	1.4	1.2
2024年10月	1.5	1.7	1.5	0.7	0.7	0.8	1.3	1.3	1.3	1.1
2024年11月	1.9	2.0	1.7	0.7	0.8	0.9	1.3	1.1	1.3	1.1
2024年12月	2.0	2.1	1.9	0.8	0.9	1.0	1.4	1.1	1.4	1.1
2025年1月	2.3	2.6	2.2	0.9	1.1	1.4	1.7	1.3	1.6	1.2
2025年2月	2.0	2.5	2.2	0.8	1.0	1.4	1.6	1.2	1.6	1.2
2025年3月	2.4	2.6	2.2	0.9	1.2	1.4	1.8	1.4	1.8	1.2
2025年4月	2.5	2.8	2.4	1.4	1.6	1.7	1.5	1.8	2.1	1.3
2025年5月	2.6	2.8	2.5	1.4	1.6	1.7	1.7	1.6	2.1	1.4
2025年6月	2.3	2.5	2.3	1.2	1.2	1.4	1.4	1.4	1.9	1.3
2025年7月	2.1	2.3		1.1	1.1		1.6		2.0	

（注1）日銀公表値に倣う形で、以下で各値を求めている。刈込平均値：価格品目別上昇率分布の上下10%（ウェイトベース）を除去して前年比を算出、加重中央値：価格品目別上昇率分布における50%近傍の値の前年比（ウェイトベース）、最頻値：各品目別の価格上昇率分布から最尤法でパラメトリックに分布を推定（正規逆ガウス分布）。得られた分布の最頻値。

（注2）低変動品目CPIの作成方法は尾崎・神保・八木・吉井（2024）に倣っている。品目別CPIの標準偏差の大小で3つにグルーピングを行い、標準偏差の小さいグループの上昇率を示す。「低変動CPI_東京」については、全国版の品目グルーピングで都区部CPIを集計した値。

（注3）日銀は一部品目・影響の除去を行っているが本試算では行っていない等、一部手法に異なる点がある点に留意。直近値は東京都区部の中旬速報値、過去値は確定値より作成。

（出所）総務省、日本銀行より第一生命経済研究所が作成。

〇まちまち：刈込平均・加重中央値は低下

以前のレポートで試算した①東京都都区部版の基調的インフレ率3指標、②日銀が賃金から物価への波及度合いを分析する際に利用した低変動品目CPIについて、本日公表の7月都区部CPIを用いて計算した。

計算値をみると、刈込平均値（全国ウェイト換算）は6月：+2.5%→7月：+2.3%、加重中央値（全国ウェイト換算）は6月：+1.2%→7月：+1.1%、最頻値は6月：+1.4%→7月：+1.6%（いずれも前年比）となった。また、全国版の低変動品目CPIは5月：+1.4%→6月：+1.3%、都区部では6月：+1.9%→7月：+2.0%となった。

結果はまちまちといったところ。日銀の物価観に変化をもたらすほどの内容ではないだろうが、加重中央値の低下が続いた点は若干弱めの印象である。予想インフレ率の上昇幅も限定的にとどまっている【弊著「日銀手法に倣った合成予想インフレ率の推計～前期から上昇も「基調的インフレ率」の日銀評価は変わらずか～」（7月14日）】中で、2%を下回るとする日銀の基調的インフレ率判断も不変とみられる。日米関税合意は利上げに追い風だが、今回結果は特にそれを急がせる内容ではない。7月会合は現状維持とみられる。

